

大潟村地域農業再生協議会（秋田県大潟村）

組織の概要

- H16年に設立 大潟村内全域を対象地域とする
- 受益農家戸数 464戸（R6年8月末現在）
- 行政と農業者団体等の連携体制の構築、戦略作物の生産振興や米の需給調整の推進、地域農業の振興を目的とする。



生産概要

- 【作付面積】水稻：8,569ha、小麦：141ha、大豆：321a（R5年産）
- 2年3作の輪作（水稻→小麦→大豆）
- R5年度に「麦・大豆生産技術向上事業」を活用し、麦・大豆の更なる生産拡大とスマート農業技術の定着を図る。
- 農家個々が畑作圃場をローテーションしており、土壌改良に寄与している。



取組のポイント

<食糧生産基地としての国産小麦・大豆の生産拡大、スマート農業技術の導入>

～安定的な収量を確保するための取組～

- 弾丸暗渠、心土破碎による排水対策（小麦）
令和5年度実績：110.0ha
- 土壌診断に基づく施肥設計と有機資材等の施用（小麦）
令和5年度実績：96.5ha

～スマート農業技術の導入促進による規模拡大の推進～

- ドローンによる農薬散布の実施（小麦）
令和5年度実績：83.0ha
 - 生産拡大に向けた機械・施設の導入（小麦・大豆）
令和5年度実績：コンバイン5台、ほか作業機等
- 機械導入により、適期に収穫可能な面積が増えたこと等で、作付面積拡大に寄与

心土破碎による
排水対策（右写真）



収穫期前のドローンによる
防除の実施（左写真）



取組成果

<小麦・大豆の生産拡大、生産性の向上の実現>

- 安定生産に向けた取組支援、生産拡大に向けた機械導入等により
小麦・大豆の作付面積が増加
(小麦作付面積：129ha(R4)→141ha(R5)→R8目標156ha)
(大豆作付面積：301ha(R4)→321ha(R5)→R7目標332ha)
- スマート農業技術の導入割合増加で省力化・効率化を図る
(小麦導入割合：21.9%(R4)→41.6%(R5)→R8目標56.6%)
(大豆導入割合：21.2%(R4)→32.4%(R5)→R7目標39.8%)

作付面積、スマート農業技術の導入率は伸びているものの、現状では単収アップに繋がっていないため、天候に左右されない、収量の安定化が今後の課題。小麦、大豆は共通して更なる排水対策、小麦は、新たな品種の検討やタンパク測定器の導入に取り組む予定。

